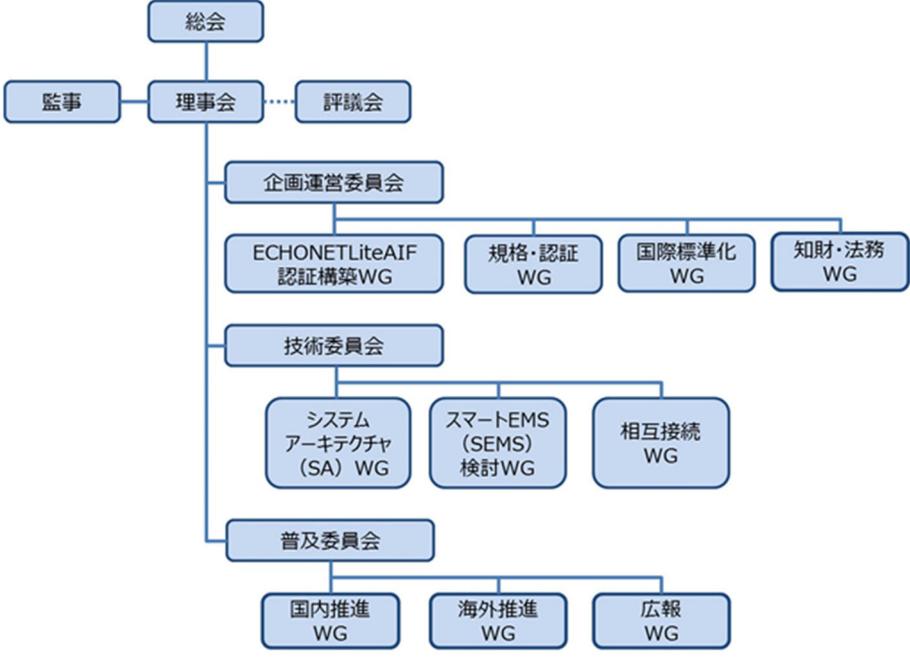


1	組織名称(略称)	一般社団法人エコーネットコンソーシアム(ECHONET) http://www.echonet.jp					
2	分類	活動目的	◎ 仕様策定 ○ 試験・認証 － その他()	－ 実装・検証 ○ 普及・啓発	オープンソース	該当なし	
		対象技術分野	②通信技術(加入者系、宅内系関連)	対象サービス	①サービス(スマートシティ関連)		
	技術MAP	活動エリア	②固定系領域の活動を主にモバイル領域の活動も実施	活動領域	④MDL領域の活動を実施		
3	目的	省エネルギーやヘルスケアの高度化等のために活用できるホームネットワークの技術開発と標準的な通信仕様の開発を行い、これを公開していく事を目的として設立。電力線や無線を利用したホームネットワーク「ECHONET」規格、および、ECHONET規格のソフトウェア実装量を軽くすると共にグローバルスタンダードな通信方式に対応するため物理層やMAC層を規格の対象外とした「ECHONET Lite」規格の策定及びその普及促進を図る。					
4	組織構成	2014年度より一般社団法人化された。総会・理事会・評議会等があり、理事会の配下に下記の委員会・WGがある。 ・企画運営委員会： 知財・法務WG、規格・認証WG、国際標準化WG、ECHONETLiteAIF認証構築WG ・技術委員会： システムアーキテクチャWG、スマートEMS検討WG、相互接続WG ・普及委員会： 国内推進WG、広報WG、海外推進WG 組織構成図  <p>ECHONETのホームページより抜粋 http://echonet.jp/organization/</p>					
5	参加資格費	本コンソーシアムは、幹事会員、一般会員、幹事準会員、一般準会員および学術会員より構成される。以下に、各会員の権利について主要なものを示す。 ・幹事会員 ECHONETに技術的貢献ができると認められた企業 規格外閲覧と意見提示、最終規格の承認(投票権)、総会への参加、理事会への					

		<p>参加、WGへの参加、フォーラム・プラグフェストへの参加 年会費:3,000,000円 ・幹事準会員 幹事会員は自己の子会社又は子法人を準会員として登録することができる。 権利は当該幹事会員に準じる。 年会費:無料 ・一般会員 ECHONETに関心がある世界中の全ての企業 規格案閲覧と意見提示、総会への参加、WGへの参加(上位委員会からの要請に基づく)、フォーラム・プラグフェストへの参加 年会費:300,000円 ・一般準会員 一般会員は自己の子会社又は子法人を準会員として登録することができる。 権利は当該一般会員に準じる。 年会費:無料 ・学会会員 ECHONETに関心がある教育機関(大学研究室等) 規格案閲覧と意見提示、フォーラム・プラグフェスト等への参加 年会費:無料</p>	
6	<p>主 要 メ ン バ (2018年08月現在) (注1)</p>	<p>メンバー数:279(日系企業238社、日系学会会員26会員) ・幹事会員: 7社 シャープ、東京電力、東芝、NTT、パナソニック、日立製作所、三菱電機 ・幹事準会員: 41社 ・一般会員: 164社(日系以外11社) ・一般準会員: 37社 ・学会会員: 30会員(日系以外4会員)</p>	
7	<p>他 団 体 ・ 組 織 の 関 係</p>	<p>・標準化団体としてはIECやISO/IEC JTC1に参画している。また、ZigBeeアライアンス、Wi-SUNアライアンスなどと協力している。また、中国のIGRS、韓国のKASHとも主に情報交換で関係している。 ・国際標準化状況としては、ECHONET規格およびECHONET Lite規格共に標準化が完了している。2017年4月に発行された「IEC62394 Ed.3」が最新版となっている。 現在は、ECHONET Lite AIF仕様(アプリケーション通信インタフェース仕様)の国際標準化提案を推進している。</p>	
8	<p>T T C 活 動 の 関 連 性 (注2)</p>	<p>TTCの専門委員会活動との関係(☑関係あり、☐関係なし) 関係する場合の専門委員会名(右欄より選択) 理由:</p>	<p>IoTエリアネットワーク</p>
9	<p>活 動 状 況</p>	<p>2017 年度活動 https://echonet.jp/activity_year/?y=2017 を参照 2018/2/15 第 8 回フォーラムの開催:講演や各委員会、各 WG の活動報告が行われた。 2018/2 第 2 回プラグフェストを開催。 2017/7/11-12 第 1 回プラグフェストを開催。 プラグフェスト:会員企業各社が機器を持ち寄って相互接続を確認し実装情報を共有できる場。 2017/6/28 第 7 回フォーラムの開催:講演や各委員会、各 WG の活動報告が行われた。 注:ロードマップとして、ECHONET Lite によるホームネットワーク市場形成・普及拡大に向けたロードマップが以下の URL にて示されている。 https://echonet.jp/about/roadmap/ [認証制度について]</p>	

		<p>ECHONET 規格、及び、ECHONET Lite 規格の認証は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品が ECHONET (Lite)規格に適合していることの証明 ・認証取得した製品の相互接続性の向上 <p>を目的として実施している。また、認証を取得した製品には商標を付与できるというメリットがある。具体的には下記の URL を参照のこと。</p> <p>http://echonet.jp/kikaku-ninsyo/</p>
10	設 立 時 期	<p>1997年12月9日 2014年4月に一般社団法人化</p>
11	本 部 所 在 地	<p>一般社団法人エコーネットコンソーシアム 〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目22番5号 新橋TSビル4階 TEL 03-6205-4142 E-Mail:info@echonet.jp</p>
12	関 連 標 準 化 技 術	<p>ECHONETとは、スマートフォンやコントローラから家にあるエアコン、照明などを制御、電力の無駄遣いを抑えるために家の電気代を把握するなど、スマートハウスを実現するための通信プロトコルである。ECHONET規格を開発した後、より簡単に使いやすさを重視したECHONET Lite規格が開発されている。</p> <p>[エコーネット規格書のダウンロード] http://echonet.jp/spec/</p> <p>ECHONET Lite規格書 Ver.1.12 (日本語版) ECHONET Lite規格書 Ver.1.12 (英語版)</p> <p>APPENDIX ECHONET機器オブジェクト詳細規定 Release J (日本語版) APPENDIX ECHONET機器オブジェクト詳細規定 Release I (英語版)</p> <p>ECHONET規格書 Version 3.21 (日本語版) ECHONET規格書 Version 2.11 (英語版)</p>
13	権 利 関 係 (I P R P o l i c y , B y l a w s な ど)	<p>IPR Policy https://echonet.jp/ip/ (知的財産権取扱規則)</p> <p>Bylaws https://echonet.jp/kiyaku/ (定款)</p>
14	備 考 (普 及 状 況 な ど)	<p>・規格に基づく製品の普及状況:</p> <p><u>スマートメータ対応コントローラ</u> コントローラ(60)</p> <p><u>AIF仕様(旧SMA含む)</u> 空調機器(4) 住宅設備機器(73) 計測装置(44) コントローラ(130)</p> <p><u>ECHONETLite規格</u> 空調機器(45) センサ(8) ミドルウェアアダプタ(9) 住宅設備機器(142) AV機器(17) コントローラ・ソフトウェア(6) 調理家事器具(16) 計測装置(54) コントローラ(144)</p>

		<u>ECHONET規格</u> ホームゲートウェイ、緊急コールリモコン、電力計測・通信機能付AC、無線モジュール、家庭用エアコン、ITアダプタ、PLCカメラ、電動シャッター、開閉センサー、人感センサー、リモコン(19) https://echonet.jp/product/echonet-lite/ に掲載		
15	更 新 履 歴	2018年7月27日	初版作成	担当: 鬼頭(KDDI)
		2018年8月28日	更新	メンバ数、日系メンバー数の更新
		2018年9月14日	更新	cleanup

(注1) 日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注2) 「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会の活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名と関連している部分等を記載する。